

令和5年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3～12
5 自己点検・評価総括表	13
6 令和5年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	14～22

はじめに

本町では、平成29年に第二期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

第二期の期間中において、本町では、町内全小中学校のコミュニティ・スクール化、長期休業日の弾力的な設定、土曜授業の実施、小学校英語専科の配置、各校に通級指導教室の開設、小中学校の全教室にエアコンの設置、トイレの洋式化、全児童生徒へのタブレットの貸与、サン・ビレッジさざ屋内外テニスコートの人工芝の張り替え、町民体育館の改修等を行ってきました。

また、教育振興基本計画の達成度を数値的に検証する「佐々町教育員会自己点検・評価」においても、ほぼ満足できる成果をあげることができました。

本町の教育振興基本計画は、その達成状況を「活動指標」と「成果指標」によって年度ごとにチェックし、佐々町の教育の全体の評価を行い、PDCAのサイクルにより改善することに特徴があります。各学校においても、この評価を自己評価として、学校関係者評価委員会を兼ねる学校運営協議会によって学校の自己評価を評価し、学校のPDCAのサイクルにより改善を行うことにも特徴があります。

本計画においては、これらの、第二期佐々町教育振興基本計画の特徴を継承しながら、令和3年3月に策定された、第7次佐々町総合計画(令和3年度～令和12年度)における教育分野の個別計画として、その関連性を明確にすることにしました。

さらに、今後の Society5.0 社会の実現に向けた変化が加速することも予想される中で、国においては、予測困難で変化の激しい社会の中を生き抜いていく人材を育成するために、小中学校の新学習指導要領が平成29年3月31日に公示され、「育成を目指す資質・能力の明確化」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進等の、抜本的な改善が行われました。

加えて、国連では、平成27年9月に、令和12年を期限とする、17の貧困や飢餓の根絶・福祉の推進などの開発目標「SDGs」を掲げ、国際社会全体の課題として取組を進めています。SDGs の理念(「誰一人取り残さない」社会の実現)の達成のためには、「教育」によるところが大きく、本町教育においてもSDGs の原動力となる質の高い「教育」提供を推進していかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症予防のための、学校の全国一斉休業や感染症予防のための新たな対応等の、今までにない「健康(感染症)と教育」という課題も生じました。

これらの、多くの課題を克服しながら、一人一人がその生涯を通じて活躍することができる社会の実現に向けて教育の担う役割は大きくなっています。

令和3年度に策定した第三期佐々町教育振興基本計画は、現行計画の成果と課題の検証のうえに、教育を取り巻く趨勢や国の教育改革の動向等を踏まえ、取り組むべき施策を明らかにすることにより、本町教育の一層の充実に図るために策定したものです。こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和5年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和7年2月

佐々町教育委員会

教育長職務代理者 中 村 尚 広

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和5年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、本計画の策定にあたっては、第7次佐々町総合計画(令和3年度～令和12年度)における教育分野の個別計画として、その関連性を明確しつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して、取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにする。

ことにしました。

なお、「成果指標」は、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の数値によることといたしました。

本計画は、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
 - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
 - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏 名	所 属 等	任 期
百津 真人	元公立中学校校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日
十時 啓介	元公立小学校校長	平成5年12月1日～令和7年3月31日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(百津委員)

はじめに

新型コロナウイルス感染症により、大きく変容せざるを得なかった教育も2023年5月8日をもって、コロナは「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」上の5類感染症に移行した。これにともない全国的に旅行やイベントなどにも制限がなくなり、通常の生活が次第に戻ってきた。

一方、新型コロナウイルス感染症により、GIGAスクール構想によって1人1台端末の整備が一気に進む等、デジタル化が大きく進展し、デジタル技術の良さを生かした多様な教育活動が生み出され、学校行事等は学校における働き方改革を進める必要性ともあいまって、それまで慣例的に行われていたさまざまな取組みが、真に児童生徒の教育上必要な部分に精選、重点化が進められた。

5類感染症への移行後の学校教育活動については、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させるとともに、GIGA スクール構想のもとで生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、いわば新しい学びのあり方へと進化を図っていくことが重要であると考えている。

今後の教育活動の実現に向けては、「1人1台端末をはじめとするデジタル技術を一層活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現」や「児童生徒が多様な他者と交流する豊かな体験活動の充実」等が重要であり、これらの実現には、環境設備を整えることはもちろん、教師が高い資質能力を身に付けていることが重要である。

特に、次代を担う人間を育むための義務教育に責任を持つ地方行政である教育委員会の任務は、非常に重要である。

ここでは、令和5年度の佐々町市教育委員会の取り組みについて「佐々町教育基本計画」(第三期:令和4年度～令和8年度)をもとに「令和5年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告」の9項目から、今後の期待を込めて評価させていただく。

1 「ふるさと教育の充実」について

子どもたちにとって今を生きる場所「ふるさと」について学び、その魅力を知ることは、自己認識(アイデンティティ)を育み、自分は何を大切にしたいのか、どのように生きていくのかを模索し、よりよく生きるための基盤につながる。大人になってどこで生きようとも、思いを馳せるふるさとがあることは、生きるための支えとなるだけでなく、夢、憧れ、志を持って行動する原動力となり得るものである。

各項目は「⑤グローバル化に対応した教育」のNo.9「県学力調査（英語）で6割以上理解している中学生の割合」が「D」評価になっていることを除き、すべての評価が「A」評価となっている。

大項目として「ふるさと教育の充実」を掲げられて2年目になり、佐々町独自の地域活用教材「佐々町博士」の活用や地域人材の活用が確実に伸びており、教育委員会・学校関係者の努力を高く評価したい。

今後さらに、学校・地域・家庭という複数からのアプローチにより「ふるさと教育」を推進していくことが重要である。そのために、2小1中という特性を生かし、学校、地域、家庭を結ぶコミュニティ・スクールを中核にした佐々町モデルの構築を目指し、「ふるさと教育」の取組に期待したい。

「D」評価になっているNo.9「県学力調査（英語）で6割以上理解している中学生の割合」においては、「2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」の項において「学力」とともに述べる。

2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

全国学力調査結果においては、中学国語が平均を上回っているものの、他教科の平均正答率が全国の平均正答率と比べて思わしくない結果になった。しかし、全国学力調査結果に基づく成果指標の達成度は、達成できたのならばそれで良いというレベルのものではなく、達成しようとする過程で、どのような教育を行ったのかという点が重要であると考ええる。

なぜなら、全国学力調査の点数を伸ばすことだけに重点を置くのであれば、試験対策（過去問対策等）を徹底すれば、点数が伸びることは想定できる。しかし、教育委員会及び各小中学校の取組所見を見れば、佐々町では安易に試験対策に頼るのではなく、これからの予測不可能な時代を生き抜くために、「自己肯定感」や「主体的・対話的で深い学び」等による授業改善を目標に掲げて、日々の教育に取り組まれているため、「一人の一人の可能性を伸ばす教育の推進」の活動指標は全て A 評価となっており、その姿勢を高く評価したい。しかし、学力は人格の一部であり、学力形成は即ち人格形成である。特に義務教育は、学力の保障に徹することが必要であり、学力は子どもにとってライフライン（命綱）である。今後、「自己肯定感」や「主体的・対話的で深い学び」を実践しつつ、目に見える学力（全国学力調査）においても効果を上げている学校の実践等について研究されることを期待する。

GIGA スクール構想においては、新型コロナウイルス感染拡大の中で、ICT を活用した様々な取組が大いに進んだと思われるが、今後数年の間で、学校現場でも「生成 AI」の進歩に対する対応が不可避となることが想定される。読書感想文やまとめ学習などは、今でも生成 AI で簡単にできてしまう。だからこそ、これからの予測不可能な時代を生き抜くために、「生徒が学びの主役となる『主体的・対話的で深い学び』に向けた授業改善を推進」することにご尽力いただきたい。我々は、知識量では生成 AI に勝てないかもしれないが、それ以外の様々なスキルを身につけることができる。今後とも、生徒一人一人が見通しをもって、粘り強く取り組む力を身につけることができるようご指導いただきたい。そのためにも、教職員の資質向上が重要であり、さらなるICTを利活用した効果的な指導法を含めた教職員の資質向上及び家庭への啓発に積極的に取り組んでいただきたい。さらに、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）にかかる研究や研修が必要になってくるものと考えられるため、先を見越した計画が必要になると考えられる。

特別支援教育の推進事業についてもすべて A 評価であり、きめ細やかな対応を高く評価する。今後も、特別な支援を必要とする児童生徒や保護者が様々な不安等を自分たちだけで抱え込むことのないように、その実情やニーズに応じた支援を今後とも適切に行っていただきたい。

本町の課題である英語学習においては、小中の授業のつなぎ方を研究する必要があると考える。小学校に「英語専科」を配置するなどの取組を高く評価するが、それが小中間のスムーズなつなぎになっているかは少々疑問である。昨年度も指摘したが、例えば、2小学校、1中学校という佐々町特徴を生かし、佐々町の学校を大きく一つのまとまりと考え、英語の免許を持つ中学校の教諭が、通年で各小学校の英語の授業を担当し、次年度は児童と共に中学校へ移動するなどの対策で、「つなぎ」を行なっていくのも一つの方法として研究する必要がある。また、それを「上位免許法」の考え方に立てば、他教科でも可能であると考えられる。今後、グローバルな感覚やコミュニケーション能力の向上が益々必要になってくると考えられる。ICT の利活用も含めて、課題解決に取り組んでいただきたい。

3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進

豊かな人間性と社会性を育むための教育は、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、勤労観・職業観などの心情を高めることが必要である。活動指標、成果指標ともにほとんどの項目でA評価となっていることから地域住民を含む多くの人々のかかわりの中で佐々の子どもたちが豊かに成長している様子がうかがえる。豊かな人間性は、人との交わりの中で形づくられていくものであり、様々な取り組みを高く評価したい。

読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであり、家庭・地域・学校における読書関係者が相互に連携し子どもの読書活動を推進することが極めて重要である。昨年度(令和4年度)は「③読書活動推進」におけるNo.30「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」の中学生の評価が「C」であったが、今年度(令和5年度)は図書館の環境改善等に努力され貸出冊数が増えて評価が「A」になった。今後とも環境の整備とともに蔵書整備(新刊の充実)を期待している。

児童生徒の体力向上・維持についても感染症対策等に万全を期して、各校で工夫された跡が活動指標の結果からもうかがえることができ、高く評価したい。成果指標においても全国体力・運動能力調査において全国比とほぼ変わらない数値となっている。食育の観点からはコロナが5類感染症に移行したとはいえ、教室等での指導に難しい面も多かったではないかと思われるが、食育は基本的生活習慣の定着とともに健やかな体を育成する基盤である。指導方法の検討や保護者等と連携した取組等の工夫改善も望みたい。

4 信頼される学校づくりの推進

校長のリーダーシップのもと、保護者や地域と連携した教育活動の実践が図られているが、昨年度「A」評価であった「①生徒指導・相談体制の充実」のNo.41「不登校児童生徒の割合」が「D」評価になっている。文部科学省が令和5年4月28日付で各都道府県・指定都市教育委員会等に発出した事務連絡では、全国学力・学習状況調査の結果からは、児童生徒の学力に低下の状況はみられなかったが、感染対策上の必要性から、児童生徒同士の触れあいを基盤とした集団的な活動や体験的な活動等が制限されたことにより、不登校の増加等、児童生徒の心身にも一定の影響が生じていると指摘した。佐々町においても例外ではなく、

コロナ禍で通学の制限や学校行事の中止など生活リズムが崩れて休むことへの抵抗感の薄れや交友関係が築きづらくなっていることで登校意欲が低下したりしていることが影響していると考えられる。

今後は、コロナ禍を通じて再認識された学校の役割も踏まえ、コロナによって、子どもを取りまく学校・生活環境も一変し、さまざまなストレスにさらされてきたことを認識し、子どもの心と体の健康や、発達と発育の観点を考慮しながら、バランスの取れた接し方の視点に重点を置いた指導助言に心がけることが必要であると考えます。

また、地域に開かれ信頼される学校を実現するためには、保護者や地域住民の意見や要望を的確に反映させ、家庭や地域社会と連携協力していくことが求められている。その推進の要となるのは、学校と地域が連携して子どもたちの教育を支える仕組みであるコミュニティ・スクールである。佐々町においてはすでにコミュニティ・スクールの導入がなされており、ある程度の成果が出ている。今後は、佐々町独自の「佐々町型コミュニティ・スクール」構築の研究に積極的に取り組むことを期待する。

5 学校・家庭・地域の連携の推進

児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中、地域社会や家庭における教育力の低下が一層懸念されている。児童生徒が「社会に適応する力」のみならず「共によりよい社会をつくる力」をもち、地域と関わりをもつことは、地域全体の活力を育むだけでなく、未来の地域社会を担う人材の育成につながり、持続可能な地域社会の実現を可能とする。また、児童生徒の主体的な地域活動への参画意識の向上は、一生涯、ふるさとを愛する心の基盤となるものである。

コロナ禍により縮小していた地域社会と連携した教育の推進も様々な制約があるなかではあるが、徐々に回復している状態にある。そのなかで、学校支援ボランティア、図書ボランティアをはじめ多くの地域人材を活用した各学校の姿勢を評価する。多くの人との出会いから学び育まれる力は、人として確かな生きる力、生きぬく力につながっていくものであり、今後も積極的な広報や活用を期待する。

学校・地域・家庭が連携した教育の推進は、佐々町教育の特色として挙げられる取組みの一つであると思う。特に「佐々っ子応援団」の見守り活動、「土曜学習」等の取組は、地域の力を引き出す取り組みとして高く評価する。今後は、英語等の指導者、ICT 機器を活用したシステムの構築等、時代が求める教育に必要な新たな支援者の発掘や拡充に期待する。

6 生涯学習機会の内容の充実と支援

コロナ禍の令和4年度と比較しても、活動指標、成果指標ともにほとんどの項目でA評価となっている。この要因の第一は、新型コロナの感染法上の位置づけが5類感染症に移行したものと考えられるが、移行後の教育委員会のニーズに合わせた企画や、町民活動を活発化する取組、感染に留意しながら受け入れる施設のご苦勞を高く評価したい。シニア層だけに限らず町民の学びの拠点としての公民館や図書館は、学びを高める重要な施設である。佐々町の施設及び教育の財産(ひと・もの)をもとに、町民が生涯にわたって学び続けられる図書館での読書活動ボランティア育成・支援やワークショップ等の体験的・集団的学習活動の企画・実施・援助等、グループ学習や仲間づくりに寄与するという面での役割も意識しな

がら、さらに教育分野だけではなく福祉分野等とも連携・連動した取組をさらに進められるような事業を展開してほしい。

7 生涯スポーツの推進

生涯スポーツの推進については、コロナ禍の中でも感染に留意しながら様々な取り組みを実施したことを高く評価したい。さらに5類感染症に移行したことにより、徐々にコロナ禍以前のような状態に戻ってきていくことが予想される。今後も対策をしっかりと行った上で、各種イベント等を適切に実施していただきたい。佐々町では生涯スポーツ、競技スポーツの振興に対して積極的に尽力されていることを評価する。No.74「総合型地域スポーツクラブ会員数」の登録者が減少し「D」評価になっている。クラブの再編成や内容の再考等に期待する。

8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進

地域の豊かな自然や言葉、昔から親しまれている祭りや行事、歴史的な建造物や町並み、景観、地域に根ざした文化芸術活動等は、それ自体が独自の価値を持つだけでなく、住民の地域への誇りや愛着を深め、住民共通のよりどころとなり、地域社会の連帯感を強めることにも資することから、地域づくりを進める上で重要な役割を有するものである。小学校においては「佐々町博士」の積極的な活用等において、郷土学習が的確になされている。芸術・文化を守り、育てる活動の推進は、「人間としてのよりよい生き方を求める」ためであり、学校教育のみならず、生涯学習においても重要なものである。

No.76「社会教育講座における郷土史学習の受講者数」が「C」評価であった。昨年も記述したが、社会教育講座における「郷土史学習」と小中学校における「ふるさと学習」をリンクする(講師あるいは受講者が学校で講師となったり、小中学校で学習したことを講座で発表したり)などの取組にも期待したい。

9 地域文化の振興と創造

子どもたちが本物の文化芸術に触れ、日頃味わえない感動や刺激を直接体験することは、豊かな人間性と創造性を育むことにつながる。また、文化芸術活動への参加を通して、自己の感性を磨き、他者との共感を育むことによって、自己形成やコミュニケーション能力を伸ばすことができる。このような表現活動に注目した取組みが大きな教育的効果を持つことを踏まえ、感染に留意しながら様々な取り組みを実施した教育委員会及び各小中学校のことを高く評価したい。

福祉の分野においても、大声を出して歌うことや、舞踊や演劇等を通じて身体を動かすことは、心身の健康の維持や増進にも役立つ効果があり、高齢者に対する福祉活動に文化芸術を取り入れることは大切であり、社会全体の活力を高める上で有意義であり、庁舎建設工事等の規制もあり利用者の減少もあるが、広報による募集の回数を増やす等の姿勢を高く評価したい。佐々町文化の発信の中核を担う「町民文化祭」においては、No.78「町民文化祭の参加者数」が「C」評価であった。参加団体の増加、来場者の増加のため、幼・小・中をはじめ、町内の文化団体とのさらなる協力体制強化等、積極的な計画を期待する。

おわりに

評価をするにあたり、教育委員との意見交換の場を設定していただくとともに、「佐々町教育基本計画」(第三期:令和4年度～令和8年度)と「令和5年度 佐々町教育委員会自己点

検・評価報告」及びホームページに掲載されていた令和5年度定例教育委員会会議録を読ませていただいた。また、「自己点検・評価報告」の評価への疑問(時期や数値)にも丁寧な回答をいただいたことに感謝したい。おかげで、どうにか評価をまとめることができた。

令和5年度は、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことで、本格的に「ポストコロナ」の段階に入ったといえる。これまで以上に複雑化・多様化が進行していく中で限られた資源をいかに効果的に配置するかが教育施策には求められる。これまでの教育施策は担当課の中で完結できる施策が多かったように思われる。ただ、学校と地域の連携・協働では教育総務部と学校教育部を跨ぐものであるし、「働き方改革」にいたっては教職員担当だけで解決できるものではない。教育委員会内における効果的な政策立案のあり方について改めてご検討いただきたい。

さらに、令和4年度から「教育振興基本計画(第3期)」の下で展開されている教育施策であるが、ここ2・3年コロナで停滞していた教育もこれまで以上に変化のスピードが速くなることが予想され、成果として設定した指標もすぐに「時代遅れ」になってしまうことも懸念される。PDCA サイクルを通じて教育施策を改善することが目的ではあるが、成果指標については「変化」にあわせて変更するなど柔軟に対応していただきたい。

(十時委員)

佐々町では令和4年度から教育振興基本計画の第3期分が策定され、令和8年度までの5年間で取り組む努力目標及び主要施策が示された。今回評価することになったのはその2年目の取組であるが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で教育委員会の取組だけでなく各学校や町施設での取組も変更や縮小・中止に追い込まれてしまった。令和5年度は5月に入り新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行されインフルエンザと同じ扱いになったことから、感染状況に配慮しながらも徐々に本来の取組が行われるようになってきた。

多くの戸惑いが残る令和5年度であったが、教育委員会は町内各学校の児童・生徒の力量を上げることと、町民の豊かな生活を支えるために最大限の努力をしてきた。自己点検・評価表にある「成果指標」も、感染症の影響がなかった令和元年度実績との比較がしやすくなったことで取組の状況が明確になり、今後重視しなければならないところが示しやすくなったと考える。これからの教育委員会の取組に大いに期待したい。

1 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

令和5年度は昨年度と同じ9項目で評価がなされており、そのすべてがA評価であった。

- (1)「教育行政の運営に関する一般方針を決定すること」については第二次佐々町子ども読書活動推進計画の策定をはじめ、現状に沿ったガイドラインの改定等が行われている。
- (5)「教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること」については中学校給食費の無償化について佐世保市の動向も見ながら検討されている。また、町内3校の改修工事や文化財調査、北部地区体育館の外壁工事など幅広く対策が講じられている。
- (6)「教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと」については学校医等の設置、就学援助、子ども読書活動、小・中学校処務規則、学校給食費の負担軽減、小・中学校管理

規則、給食物価高騰対策など、多くの課題に関連する要綱等が制定・改正されている。一部改正が多く見られることから、きめ細かい対応をしていこうという意識が強く感じられる。

- (7)「教科用図書の採択に関する基本方針を定めること」については小学校教科用図書の採択が最終段階に入っているが、ここまで公正・適切に行われている。2次元コードを含む教科用図書は活用の仕方が様々考えられるので、各地区の意見も参考に最善の選択がなされることを期待している。
- (13)「校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること」については、校長・教頭の研修は毎月、学校運営の中核となる教員研修が各3回ときめ細かく行われている。また、町雇用の支援員に対する研修も行われている。学校の安定した指導は児童・生徒をとおして保護者の安心や信頼にもつながるので、ぜひ内容の深い研修を続けていただきたい。
- (16)「文化財の指定に関すること」については令和4年度に鯉節形大珠が県文化財として申請され、その後指定された。誠に喜ばしいと同時に、今後、町内外にどのようにその価値を紹介していくかが課題となる。

2 佐々町教育委員会 自己点検・評価報告書について

大項目、中項目、活動指標、成果指標とも令和4年度からの内容に変更はない。教育振興基本計画の策定における基本的な考え方の中に「毎年度見直しを行い現状との計画の乖離をなくす」とあったが、本年度の5月以降に計画が本格的に動き出したといってもよいくらいなので、見直しがあるとすれば次年度以降となるだろう。

大項目1「ふるさと教育の充実」

中項目が7つ設定され、活動指標として教育委員会指標が11点、学校等指標が15点示されているが、全てA評価であった。学校等指標の内容も中学校の職場体験の実施がD評価であったが、3年生の修学旅行と2年生の職場体験を実施する学年を入れ替えたため実施しなかったことが理由であった。修学旅行を実施する学年が2年生に移行するのは入試の準備のため実施時期がかなり限定されることが理由であろうが、小学校の修学旅行(大体6年生で実施)と間隔が近くなるため、旅行内容の吟味が必要となってくるだろう。インバウンドの観光客も増加傾向にあるため、実施時期や宿泊場所等の確保も問題になる。また保護者の負担感が増してくると思われるので早い段階からの準備が必要になってくるであろう。

成果指標については学校支援ボランティアの実人数が前年度と比しても増加していることがよかった。コミュニティ・スクールの取組では「広く・緩い」つながりで長い期間、学校を支援するという姿勢が根底にあるので、外部の方が気軽に足を運べる学校づくりを進めていただきたい。そのためには地域側に学校との連絡・調整等を行うコーディネーターが欲しい。この人材を教育委員会の持つ情報網から得ることができれば言うことはない。

また、夢の実現に向けて行動している生徒の割合がとても高いこともうれしい。さらに外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ってみたいと思っている児童の割合がかなり高い状況にあることもよい。この意識が英語の勉強は大切だと思っている生徒の割合の高さにもつながっていると思われるが、半面、県学力調査(英語)で6割以上理解している生徒の割合が低くなっている。小学校では楽しいと感じている英語が中学校では難しい教科になっ

ている状況なので、英語の指導については小中間の情報交換を密にするなど、スムーズな移行を図るとともに教師の指導方法の見直しも必要になってくるであろう。教育委員会の丁寧な関わり方を望みたい。

大項目2「一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」

中項目が5つ設定され、活動指標として教育委員会指標が31点、学校等指標が41点示されているが、全てA評価であった。学習規律の徹底のところに課題が残るが、学力向上に直結する部分でもあるので、担任任せにならないよう教育委員会と学校が連携して改善に努めてもらいたい。

成果指標では全国学力学習状況調査の到達度が低くなっているところが気になる。過去問を解いて対応している学校があることも聞いているが、その取組方が重要というよりも、読解しなければならない問題文の分量がかなりあるため全体把握がいかに早くできるかが第一の課題ではないかと考える。続いて、問われた内容への答えも早くまとめ表現する力が必要となるだろう。現在「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が進められているところなので、児童・生徒が互いの考え方や表現の仕方などのよさを知り、それを自分の中に取り入れ「自分の実力」として育てることができれば対応策のひとつになるのではないと思う。この対策については各学校の学力向上対策はもちろん教育委員会の指導・助言も強く求めたい。

GIGAスクール構想の実現(中項目③)では、タブレットが全児童・生徒に行き渡って活動が軌道に乗った。当初問題になった一斉使用でのフリーズも年度後半には解消したということなので、大いに活用してほしい。ドリルもたくさん入っている(ドリルパーク)と聞いているので積極的に取り組ませてほしいが、学習が「正解・不正解」といったゲーム感覚的な段階でとどまることがないように学力向上に結び付けてほしい。また、教師に共通的に求められる資質・能力の中に「ICTや情報・教育データの利活用」があるので、校内研修や三校共同研究の中などで情報交換ができればと考える。AIは猛烈な勢いで進化しているので、現在どのようなことができるようになっているのか概要でよいので把握しておくことは必要だろう。

この大項目の最後にある教育委員会の所見は現状をよく把握してあり対応もよくわかるので、今後も力強い支援を続けてほしい。

大項目3「豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進」

中項目が7つ設定され、活動指標として教育委員会指標が12点、学校等指標が23点示されているが、全てA評価であった。

成果指標では「いじめ」の解消率が100%なのがすばらしい。各校の教師も児童・生徒も「いじめ」と思われる事案に早期に気づく意識が高いのだろう。「いじめ」の始まりは様々だろうが、個人的には「いじり」もきっかけのひとつと考えている。日常の何気ない行動の中に「おかしい雰囲気」を感じる敏感さを持ってほしい。教育委員会からのきめ細かい指導・支援にも期待している。

「学校図書館の児童・生徒一人当たりの貸出冊数」において、中学校が大きく伸びている。図書館の環境がよくなったことが挙げられていたが、司書教諭をはじめ教師の働きかけがあつてのことだと考える。読書活動は読解力向上にも結び付くことなので、さらに冊数が伸びることを期待したい。

体育の実技及び意欲については、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っているよ

うに思われる。また、児童・生徒の傾向として「持久力はあるが柔軟性に課題がある」ことが長年続いているとの話なので、小中学校共通の課題として改善に取り組んでほしい。

大項目4「信頼される学校づくりの推進」

中項目が5つ設定され、活動指標として教育委員会指標が15点、学校等指標が18点示されているが、全てA評価であった。

成果指標については「不登校児童生徒の割合」が増えているのが気がかりである。小中別の状況を尋ねると、小学校が県平均並みであるのに対し中学校は県平均を超えているということであった。しかし、数字に表れていないグレーゾーンの児童・生徒も少なくないということなので、その芽は早い段階から育っていると考えるのが妥当であろう。大項目3にあった「いじめ」は、この数値に関係していないのだろうか。ここは検証して欲しい。不登校対策はこれまで学校に登校することを目標としてきたが、今はフリースクールや学校外の公的機関（例えば公民館）等へ出かけての活動も出席扱いにできるようになった。将来必ず社会人になる児童・生徒の成長を見守る場は幅広くあることを、該当する家庭の保護者や児童・生徒に教育委員会から発信し引きこもりに陥らないようにして欲しい。

大項目5「学校・家庭・地域の連携の推進」

中項目が4つ設定され、活動指標として教育委員会指標が10点、学校等指標が8点示されているが、全てがA評価であった。

成果指標については、学校支援ボランティアの実人数が増えていることがうれしい。学校と地域が連携して児童・生徒の成長を見守る姿勢が継続されている証でもある。

図書ボランティア等による読み聞かせはA評価であるが、前年度と比べると数値が下がっている。何か事情があるのだろうが、今後は現状維持以上になることを期待したい。

地域子ども教室参加者数が目標値には届いていないものの、前年度と比べると増加している。新型コロナウイルス感染症による制限が外れたことが大きい。ただ、このような活動を支える中心である「佐々子応援団」は少しずつ高齢化しているので、若い加入者を迎えることにも力を入れなければならないだろう。

大項目6「生涯学習機会の内容の充実と支援」

中項目が4つ設定され、活動指標として教育委員会指標が6点、学校等指標が6点示されているが、全てがA評価であった。

成果指標については、公民館活動の参加者や地域交流センターの利用者が増えている。公民館所見にあるとおり、新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響が大きかったと思われる。

県立大と連携した講座や活動の実施数が低い(D評価)。大学側の意向と町民の要望がマッチするような場づくりを教育委員会が設定できれば実施数も増やせるのではないかと。

大項目7「生涯スポーツの推進」

中項目が5つ設定され、活動評価の中に教育委員会指標が7点、学校等指標が7点示されているが、全てA評価であった。

成果指標では、毎年3月に開催されているジョギングフェスティバルの参加者数がかなり減っている(D評価)。知名度のあるゲストラナー（現役に限らない）や学生ランナーを招待

したり、賞品の内容を変えたり、新しい距離を検討したりするなど参加者増の対策を考えてほしい。また、ランナーが安心して走れるコースであるか走路の点検も必要になる。予算が絡む話でもあるので、十分検討して対策を練ってほしい。

総合型地域スポーツクラブ会員数が減少している(D 評価)。課題は指導者の確保にあると思われるが、こちらも年々高齢化しているのではないかと。国が推奨して始まった取組だが、20 数年が経過しているのでクラブの再構成が必要な時期になっているのかもしれない。

大項目8「芸術・文化を守り、育てる活動の推進」

中項目が3つ設定され、その活動指標の中に教育委員会指標と学校等指標が合わせて3点示されているが、全て A 評価であった。

成果指標でも小学校3・4年生向けの冊子「佐々っ子博士」を活用しての学習の評価が高い。町役場職員をゲストティーチャーに呼ぶなど、地域人材を活用しようとする姿勢もよい。

社会教育講座における郷土史学習の受講者が少なくなっている(C 評価)。公民館所見にあるように、対策を考えなければならないだろう。

大項目9「地域文化の振興と創造」

中項目が4つ設定され、その活動指標の中に教育委員会指標と学校等指標が合わせて4点示されているが、全て A 評価であった。

成果指標では町民文化祭の参加者数がかなり減少している(D 評価)。毎年展示物を見に行っているが、ブースが年々少なくなっている印象を受ける。個人出展募集はなされているが、広報に詳しい方の助言も聞いてみてはどうだろう。

各学校では芸術・文化に触れ合う機会が確保できてよかった。佐々中の吹奏楽部の定期演奏や清峰高校のコーラス部の発表といったものが両小学校に DVD やネット配信の形ででも提供できたら、児童の文化活動の高まりにもつながるのではないかと思う。

おわりに

令和4年度から教育振興基本計画の第3期分が策定されて2年目の取組であったが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行された事で、これまで制約を受けていた計画ができるようになって活動が一気に活発化した印象を受けた。同時に個別対応しなければならない家庭の問題や高齢化による活力低下も顕著に見られるようになった。一度停滞した活動を上向かせるにはかなりの労力を必要とするが、その原動力は個々の意識にあると思う。教育委員会・学校・家庭・地域が一体となってその意識を高めていく事を願っている。

昨年度からこの外部評価をさせていただいているが、できれば該当年度終了後の夏場には評価したいと思っている。町内の様々な教育機関から情報を収集しなければならないので大変だとは思いますが、検討していただければありがたい。

令和5年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

令和4年4月から第3期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

なお、「成果指標」については、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度実績から行い、その改善に資することとしました。また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	119	99.5%	99.5%
B	0	0	0.0%	
C	0	0	0.0%	
D	0	1	0.5%	
—	0	0	0.0%	
計	96	120	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	70	85.4%	87.8%
B	2	2.4%	
C	2	2.4%	
D	7	8.5%	
—	1	1.2%	
計	82	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 ふるさと教育の充実	A	A
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
6 生涯学習機会の内容の充実と支援	A	B
7 生涯スポーツの推進	A	A
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	A
9 地域文化の振興と創造	A	B

令和5年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
1 ふるさと教育の充実	① ふるさと教育の推進	1	「佐々町博士」の活用推進	4.0	A	「佐々町博士」の活用(小学校)	学校等	4.0	A	1	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】	データなし	100%	91	91.0%	A	独自アンケート
		2	「ふるさと長崎県」の活用推進	4.0	A	「ふるさと長崎県」の活用(中学校)	学校等	4.0	A	2	「佐々町博士」の活用度(小学校)	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	② 体験活動の推進	3	体験活動推進のための支援・指導	4.0	A	体験活動の充実	学校等	4.0	A	3	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		4	町の地域資源を活用した体験活動の推進	4.0	A	町の地域資源を活用した体験活動の実施	学校等	4.0	A								
	③ 地域人材の活用	5	地域人材活用のための支援・指導	4.0	A	地域人材活用の推進	学校等	4.0	A	4	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	103	102.7%	A	実態調査
	④ キャリア教育の推進	6	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の設定	学校等	4.0	A	5	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	92.0%	95%	87	91.6%	A	学校運営調査5-2(1)
		7				職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A	6	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	74.0%	80%	90	112.5%	A	学校運営調査5-2(2)
		8				職場体験の実施(中学校)	学校等	0.0	D								
	⑤ グローバル化に対応した教育の推進	9	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	7	外国の人と友人になったり、外国のことについてもっと知ってみたいと思っている小学生の割合	68.6%	70%	81.7	116.7%	A	全国学力調査25
		10	英語活動・英語の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	英語活動・英語の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	8	英語の勉強は大切だと思っている中学生の割合	82.4%	85%	89.5	105.3%	A	全国学力調査中55
		11	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	9	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	18.0%	60%	15.7	26.2%	D	全国学力調査または県学力調査
	⑥ 環境教育の推進	12	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科の学習等を含む)	学校等	4.0	A	10	環境教育に関連する体験的な学習(活動)の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		13				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A								
	⑦ 平和教育の推進	14	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	11	戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合	98.0%	100%	98.0	98.0%	A	学校運営調査5-4
		15				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A								

1 ふるさと教育の充実	評価 所見	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.7	総合評価: A	評価平均: 94.9%	総合評価: A
	所見(幼稚園)						
	所見(佐々小)	ふるさと教育の充実に向け、地域人材を延べ531人活用することができた。また、11月には、地域の団体やサークル活動の方々をお招きし、「わくわく佐々っ子フェスタ」を行った。地域の方々が講師となって、ワークショップ形式で活動を行い、交流を深めるとともに地域への感謝や愛着の気持ちを高めることができた。					
	所見(口石小)	今年度も、地域婦人会の皆様には梅干しの漬け方、生ごみたい肥による野菜の栽培、ミシンの使い方の指導など体験活動を行うことができた。また、地域の農業者に田植え・稲刈り、老人会の皆様には昔遊びの指導でお世話になっている。ふるさとで活躍されている方々から学び、その生き様を感じることで、ふるさとを大切にし、人の役に立ちたいという思いをもった児童が育ってきている。					
	所見(佐々中)	主体的に学ぶ生徒の育成のために全職員が協働することができた。令和5年度は修学旅行を2年生へ移行するために2学年と3学年で実施した。そのため職場体験学習は実施せず、令和6年度より3学年で実施することになる。					
	所見(委員会)	佐々町博士は地域学習用教材として非常に使いやすいと好評であった。また、地元出身者による講話は、子どもたちの目標や夢に向けて励みとなっており、キャリア教育の推進が図られており、引き続き実施していきたい。中学校での職場体験学習は、修学旅行を3年生から2年生に変更したため実施せず、R6年度から3年生が実施するようカリキュラムが変更された。					

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 確かな学力の育成	16	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	12	3校研における公開授業の開催数(年間)	3回	3回以上	2.33	77.8%	B	実態調査
		17	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	13	タブレットを活用した授業の実施	データなし	100%	100.00	100.0%	A	実態調査
		18	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	14	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査
		19	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A	15	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査
		20	学校訪問による指導	4.0	A	学校訪問による指摘事項等の学校改善への反映	学校等	4.0	A	16	佐々町学力テスト全国平均比較(到達度)	0.96	1.00以上	0.97	97.0%	A	町学力調査
		21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	17	全国学力テスト全国平均比較(到達度)【総合戦略】	0.97	1.00以上	0.89	89.0%	A	全国学力調査
		22	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		23	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		24	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A								
		25	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A								
		26	サポート・ティーチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		27	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		28	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A								
		29				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A								
		30				授業規律の徹底	学校等	3.7	A								
		31				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		32	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		33	体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		34	佐々町学力テスト実施・活用への支援	4.0	A	佐々町学力テスト結果向上への取組	学校等	4.0	A								
		35	全国学力テスト実施・活用への支援	4.0	A	全国学力テスト結果向上への取組	学校等	4.0	A								
	② 学校間の連携の推進	36	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	18	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	3.3	111.1%	A	実態調査
		37	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	19	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		38				中学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A	20	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	0.0	0.0%	D	実態調査
		39				両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A								
	③ GIGAスクール構想の実現	40	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	21	パソコン等を使って、資料を探したり、自分の考えまとめたり、発表したりすることができる児童生徒の割合(小学校第5年生以上)	データなし	80%	82.0	102.5%	A	学校運営調査5―5(1)
		41	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	22	パソコンを活用した学習に意欲的に取り組んでいる児童生徒の割合(小学校第5学年生以上)	データなし	90%	89.3	99.3%	A	学校運営調査5―5(2)
		42	タブレットの配置	4.0	A	タブレットの効果的な活用	学校等	4.0	A								
		43	プログラミング教育実施のための支援	4.0	A	プログラミング教育の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		44				情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A								
		45				情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A								
	④ 幼児教育の推進	46	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	学校等	4.0	A	23	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		47	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A								
		48				小学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A								

⑤ 特別支援教育の推進	49	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	24	個別の教育支援計画の作成率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	50	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	25	特別支援教育を理解している教員の割合	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	51	教育支援委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談体制の確立	学校等	4.0	A								
	52	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A								
	53	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A								
	54	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A								
	55				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A								
	56				個別の教育支援計画の作成	学校等	4.0	A								

2. 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)	
			達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 91.2% 総合評価: A	
	所見(幼稚園)					
	所見(佐々小)	教育支援員及びICT支援員を適切に活用し、校内研究による授業改善(子どもが進める授業)を軸に確実に成果があがっている。授業改善やICTの効果的な活用により県学力調査、全国学力・学習状況調査、町学力調査においても、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も、授業改善を柱にさらなる学力向上を目指し、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指していく。また、特別支援教育の指導体制を強化した結果、情緒的に不安定だった児童の多くが落ち着いた学校生活を送ることができた。6年生は、口石小との交流会を企画していたが、インフルエンザ流行のため実施できなかった。				
	所見(口石小)	自己肯定感を持ち、未来を拓く子どもを研究主題に、進んで対話し学ぶ楽しさを味わう学習をできるように、校内研修で共通理解を図りながら児童の学力向上に努めている。必要感ある対話を授業の中に仕組み、学ぶ楽しさを味わう授業を通して、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という気持ちを育て、「わかった」「できるようになった」という好循環をつくることで、確かな学力を育成している。また、特別支援教育には力を入れ、町の学習・生活指導員、特別支援教育支援員、学力向上支援員、心の教室相談員、SC、SSWの力を最大限活用し、よりきめ細やかな指導を継続している。				
	所見(佐々中)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒同士の「学び合い」を授業へ取り入れるために、福岡より講師を招聘し、研修会を実施した。3校研を活用し授業改善を図った。ICT支援員を効果的に活用し、授業における活用やオンライン集会を実施した。				
所見(委員会)	全国学力調査は、中学校国語が全国平均を上回ったが、その他の科目(小学校国語・算数、中学校数学・英語)は、全国平均以下となった。長崎県学力調査も同様に、中学校国語と数学が平均を上回ったが、その他の科目(小学校国語・算数・理科)が平均以下であった。また、町の学力調査においては小学校は全教科において全国平均レベルであったが、全体的に、その年度の学年の実態が学力へも影響していることが伺える。まずは学級経営を安定させ、落ち着いて学習ができる環境を作っていくことと、成果(数値の向上)として残る日頃の授業実践が必要である。また、中学校については、数学が平均を上回ったが、英語に課題が見られたことから小学校英語から中学校英語へのスムーズな移行が望まれ、小中の授業のつなぎ方を研究する必要がある。主体的、対話的な授業実践を重ねることにより、向上が期待できる。学校全体の校内研修を充実させ、安定した結果を残せる授業改善研修を継続する必要がある。 ICT機器を活用した授業支援や講師招へい研究授業等を実施することにより、児童生徒の「主体的・対話的」で「深い学び」につながる授業づくりの支援を行った。また、学校のインターネットの通信環境改善のため、ICT関連機器の更新や設定作業を行った。 学習や生徒指導についても、3校共同研究や各種研修の取り組みによって充実を図ることができた。 特別支援教育については、医療的ケアが必要な児童に対応するため看護師を配置した。支援が必要な児童生徒は年々増加しており、支援員の配置が特別支援教育の充実に寄与している。今年度は、支援員等の研修会を実施し、各支援員のスキルアップを図った。					

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	① 道徳教育の推進	57	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	26	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100%	A	実態調査
		58	佐々子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A	27	周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)	88.4%	90%	96.7	107%	A	学校運営調査5－1
		59				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		60				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A								
		61				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A								
	② 人権教育の推進	62	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)	88.4%	90%	96.7	107.4%	A	学校運営調査5－1
		63	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A	29	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		64				人権集会の実施	学校等	4.0	A								
		65				いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A								
	③ 読書活動の推進	66	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)	小学校 95冊	小学校 80冊	114.7	143.4%	A	実態調査
		67				「読み聞かせ」の実施(保育所等・小学校)	学校等	4.0	A			中学校 4冊	中学校 20冊	17.0	85.0%	A	
	④ 子どもたちの芸術・文化活動の推進	68	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		69	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	4.0	A	芸術・文化の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	4.0	A	32	芸術や文化に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		70				芸術・文化に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A								
	⑤ 体力向上の取組の推進	71	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	体力テスト全国平均比較(到達度)	0.957	1.00以上	1.0	95.3%	A	実態調査
		72	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	88.0%	90%	80.0	88.9%	A	体力運動能力調査
		73				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	90.1%	90%	82.7	91.9%	A	体力運動能力調査
		74				体力テスト結果の有効活用	学校等	4.0	A								
	⑥ 健康教育の推進	75	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	3.7	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	3.7	A	36	毎日同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合	88.1%	90%	83.4	92.7%	A	全国学力調査2
		76				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合	95.5%	98%	92.7	94.6%	A	全国学力調査3
	⑦ 食育の推進	77	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	3.7	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	3.7	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数(年間)	104回	50回	36.7	73.3%	B	実態調査
		78	給食の充実に関する支援	4.0	A	給食指導の充実	学校等	4.0	A	39	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	97.0%	100%	91.1	91.1%	A	全国学力調査1
		79				個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A								

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 3.9 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 98.1% 総合評価: A
所見(幼稚園)				
所見(佐々小)	人間関係の構築と活性化を図るために、Q-Uテストの結果を詳細に分析し、各担任の学級経営に生かしている。道徳教育については、教職員相互に日々の授業改善について研修や情報交換を行い、子どもの心に響く指導に努めている。また、人権教育・平和教育等、教室で学習した内容が日常生活の実践につながるよう、特別活動や総合的な学習の時間を中心とした体験活動の充実を図っている。図書館教育については、様々なイベントを行うことにより子どもの読書意欲が高まっている。			
所見(口石小)	「心を見がく一日一善(あいさつ、へんじ、くつならべ)」を学校経営に位置づけ、全校で実施している。具体的な取り組みの一つとして「あいさつ名人」をクラスごとに表彰したり、スリッパが並んでいる「スリッパ名人」のトイレを昼の放送で紹介したりすることを継続し、意識の向上を図ってきた。年2回「生活習慣カレンダー」への記入を実施することで、よりよい生活習慣への改善を図るとともに、今年度は、メディア講演会を全校で実施し、子どもだけに指導するのではなく、保護者の意識も向上するような視点をもって、メディアに対する意識を高め、生活習慣の見直しを図った。			
所見(佐々中)	豊かな人間性、社会性を育む教育の推進のために、長崎っ子の心を見つめる教育週間における道徳授業の実施および平和集会や人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を行った。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。R5末時点では、解消率は100パーセントとなっているが、今後も定期的なアンケートの実施等を徹底する。また、読書活動の充実を通して、読解力の向上および学力向上へ取り組んできた。貸し出し冊数も徐々に向上しているので、今後も司書教諭と連携しながら対応していきたい。			
所見(委員会)	昨年に引き続き、「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合」は高い水準を維持できており、児童生徒の心情的な成長は図られている。「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)」については、小学校は目標値を達成したが、中学校は昨年度よりは向上したものの目標値を達成することができておらず、さらなる改善が必要である。体力向上へ取組については、各学校が個別的にできる体力向上に工夫しながら取り組み、全国体力・能力調査においては、全国平均には若干及ばなかったものの概ね達成できた。「食」に関する栄養教諭による指導回数についても、目標値を下回ってはいるが昨年度よりも指導を行うことができた。就寝・起床、朝食の摂取率は全体的には良好である。個別的に課題を持つ児童生徒もいるため、家庭と連携した個別指導が必要である。			

大項目	中項目	活 動 指 標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
4 信頼される 学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	80	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100	100%	A	実態調査
		81	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.20	県平均以下	4.14	58.2%	D	実態調査
		82	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	93.6%	95%	92.77	97.6%	A	全国学力調査13
		83	問題行動対応についての指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	83.1%	85%	81.7	96.1%	A	全国学力調査5
		84	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		85	不登校支援対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		86	SC、SSW、心の教室相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の教室相談員の配置	各校に配置	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
	② 子どもの安全確保対策の推進	87	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	47	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		88	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	48	避難訓練の実施回数(年間)	小学校 3回	現状維持	3.5	116.7%	A	実態調査
		89	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A		中学校 2回	2		100.0%	A		
		90				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	49	佐々子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査
										50	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	④ 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	91	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	51	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		92	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	4.0	A	52	学校評価の公表	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		93				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A	53	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	102	101.7%	A	実態調査
		94				学校運営協議会の充実	学校等	4.0	A								
	⑤ 教職員の指導力の向上	95	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	54	町教委主催の各主任研修会の開催数(年間)	12回	12回以上	12	100.0%	A	実態調査
		96	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	55	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	3	100.0%	A	実態調査
		97	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A								

	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
		達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 98.1% 総合評価: A
4 信頼される学校づくりの推進	所見(幼稚園)			
	所見(佐々小)	いじめ対策や不登校対策については、早期発見・早期対応を心掛け、一人ひとりを大切にした対応、一つ一つの事案への迅速な対応を行っている。地域人材の活用については、各学年の教育課程に意図的に位置づけ、より一層充実した活動になるよう努めている。教職員の指導については、外部講師の招聘、3校研の充実、若手研の実施により、資質・能力の向上を図っている。学校運営協議会では、学校情報の公開に努め、委員の意見を取り入れながら学校経営を行っている。		
	所見(口石小)	いじめにつながる問題行動を見逃さないようにするために、いじめの事案が疑われる場合は、学年主任、管理職に迅速に報告、相談できる体制を徹底している。不登校児童に対して、担任だけでなく、組織で対応するように努めるとともに、新しくできたステップルームやSCやSSW、心の教室相談員など人的資源を活用し、登校している児童へも細やかな対応をできるような体制を整えて、組織的に指導を行い不登校も減少傾向が見られた。		
	所見(佐々中)	信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上をはじめ、問題行動の早期発見・即対応に努めてきた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより等の計画的な発行を行った。佐々町3校合同研究により小中の連携を深め、児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。		
	所見(委員会)	生徒指導については、全体的には良好であるが、個別的に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関等との連携を進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」又は「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っている。不登校児童生徒の割合は昨年より増加しており、学校以外の家庭の問題もあるため、家庭との連携を図るとともに、QU検査を活用して予兆の段階での対応の強化や「ステップルーム」を活用していく必要がある。学校ボランティアの実人数は確保できたが、サポートティーチャー等の地域と連携した活動は昨年度に引き続き不十分であった。		

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
5 学校・家庭・地域の連携の推進	①「地域とともにある学校づくり」の推進	98	学校運営協議会への支援	4.0	A	学校運営協議会の開催	学校等	4.0	A	56	学校運営協議会の開催回数(年間)	各校3回	各校3回以上	3	100.0%	A	実態調査
		99	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	57	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	102	101.7%	A	実態調査
		100	大学生活用への支援	4.0	A	大学生の活用	学校等	4.0	A								
		101				地域を学習材とした活動の実施	学校等	4.0	A								
	② 読書活動の充実	102	読書活動推進のための支援	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A								
		103	図書ボランティア等の活動の支援	4.0	A	「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	4.0	A	58	図書ボランティア等による「読み聞かせ」の実施回数(年間)(小学校)	データなし	30回(実施学級)	40.5	135.0%	A	実態調査
	③ 地域教育を担う人材の育成	104	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	59	土曜学習参加児童数(年間)	548人	550人	467	84.9%	A	実態調査
		105	土曜学習の開催	4.0	A					60	佐々っ子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査
		106	佐々っ子応援団活性化への取組	4.0	A												
		107	青少年健全育成活動への支援	4.0	A	佐々っ子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A								
	④ 青少年健全育成活動の支援	108	地域子ども教室の開催	4.0	A					61	地域子ども教室参加児童数	674人	700人	647	92.4%	A	実態調査

	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 102.3%	総合評価: A
5 学校・家庭・地域の連携の推進	所見						
	所見(幼稚園)						
	所見(佐々小)	学習支援、安全指導、読み語りなど、地域人材との連携・活用を推進している。年度末には、見守りボランティア等お世話になった方々をお招きし、感謝の会を開催している。図書ボランティアの会及び数年ぶりに清峰高校図書部の生徒に、毎週火曜日読み語りを実施していただいた。子どもたちは、毎週楽しみにしており、心温まる交流となっている。					
	所見(口石小)	退職校長会や民生委員によるサポートティーチャー、婦人会や地域の方々による学習支援、毎朝の立哨指導など、多岐に渡って連携を教化することができている。また、令和5年度は、PTA会員の全員が参加しやすくよりよいPTA活動にしていこうということでPTA会長が中心になり改革に着手し実践をしている途中である。学校と家庭、地域と連携しながら、児童の健やかな成長をみんなで支えようとする意識の高まりがとてもありがたく力になっている。					
	所見(佐々中)	佐々っ子夢プランを各家庭に配布し、周知・徹底を図った。また、アンケートの実施を行いPTAの協力もいただきながら集計、分析を行っている。佐々っ子応援団の協力のもと、朝の立哨運動など子どもたちの見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAとも連携してあいさつ運動を実施するなど連携した活動を行った。					
	所見(委員会)	昨年度と比較して参加者数は増加しているが、中止した体験活動もあり、土曜学習・地域子ども教室ともに参加児童数は目標を達成できなかった。しかし、子どもたちの体験活動、「佐々っ子応援団」活動などの地域ボランティアの見守り活動により、学校・家庭・地域の連携の推進を図ることはできた。					

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
6 生涯学習機 会の内容の充 実と支援	② 各種講座を通 じた指導者・ティー チャーの養成	109	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	62	各種講座参加者数(年間)【総合戦略】	573人	600人	669	111.5%	A	実態調査
		110	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	4.0	A	63	公民館活動参加者数(登録者数)	521人	550人	450	81.8%	A	実態調査
		111	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	64	講座参加者の満足度	98.0%	95%以上	96.4	101.5%	A	実態調査
										65	県立大学と連携した講座や活動の実 施数(年間)	4回	4回	1	25.0%	D	実態調査
	③ 読書機会の充 実	112	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	66	町立図書館の貸出冊数(年間)【総合 戦略】	144,387冊	現状以上	123,971	85.9%	A	実態調査
		113				「読み聞かせ」の実施	図書館	4.0	A	67	読み聞かせへの参加者数(年間)	1,929人	現状以上	2,451	127.1%	A	実態調査
	④ 人権教育の推 進	114	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	68	人権に関する講座の開催数(年間)	1回	現状以上	1	100.0%	A	実態調査
	⑥ 地域交流セン ターの利用促進	115	ホームページ等による利用の広報	4.0	A					69	地域交流センターの利用者数(年間)	19,008人	20,000人	20,782	103.9%	A	実態調査

6 生涯学習機 会の内容の充 実と支援	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 90.4% 総合評価: A
	所見(公民館)	各種講座参加者数と満足度では、目標値を達成した。このことから生涯学習の機会と内容充実は概ね達成できたと思う。 令和5年5月で新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられたことも、目標達成の1つの要因と考える。		
	所見(図書館)	書籍の整理については、定期的に蔵書整理を行い、選書については、分野別に計画どおりの選書ができた。貸出冊数については、昨年度よりも若干の減となったが、ほぼ現状維持することができた。 読み聞かせの実施については、予定どおり実施することができたが、参加者が少なく目標値を下回った。		
	所見(委員会)	町民のライフステージに応じた学習機会の提供に取り組むことができた。今後も生涯にわたって学ぶことができるよう引き続き実施していきたい。県立大との連携については、目標値に達していないので力を入れていきたい。読み聞かせについて は、参加者増に向けた取り組みを検討していく必要がある。		

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
7 生涯スポー ツの推進	① スポーツイベ ントの推進	116	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	関係団体	4.0	A	70	スポーツイベントの参加者数(年間) 【総合戦略】	908人	920人	1,377	149.7%	A	実態調査
		117				スポーツイベントの運営	関係団体	4.0	A	71	ジョギングフェスティバルの参加者数	1,809人	2,000人	1,287	64.4%	C	実態調査
	② スポーツ少年 団・体育協会活動 の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	関係団体	4.0	A	72	スポーツ少年団各部への登録者数及 びクラブ数	236人	現状以上	251	106.4%	A	実態調査
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	関係団体	4.0	A			13部	現状以上	12	92.3%	A	
										73	体育協会各部への登録者数及びクラ ブ数	316人	現状以上	280	88.6%	A	実態調査
												13部	現状以上	12	92.3%	A	
	③ 総合型地域ス ポーツクラブの育 成	120	総合型スポーツクラブへの支援	4.0	A	スポーツイベントやレクリエーションの開催	関係団体	4.0	A	74	総合型地域スポーツクラブ会員数【総 合戦略】	195人	200人	95	48.7%	D	実態調査
	④ スポーツ指導 者の育成	121	スポーツ指導者の育成	4.0	A	スポーツ指導者の育成	関係団体	4.0	A								
	⑤ 体育施設の適 切な維持管理と有 効活用	122	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	関係団体	4.0	A	75	体育施設の利用者数(年間)	117,428人	119,000人	109,101	91.7%	A	実態調査
		123	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A												

7 生涯スポー ツの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 91.8% 総合評価: A
	所見(スポーツ関係団体)	ジョギングフェスティバルの参加者数が減少している。参加者を増やすために周知方法を検討していく。 スポーツ人口の減少に伴い、部数が減少している。スポーツ協会の会員は減少しているが、少年団は会員増となっている。今後もスポーツ振興のために、活動を促進していく。		
	所見(委員会)	ジョギングフェスティバルをはじめとする各種スポーツ大会を開催することができた。しかし、スポーツ協会各部の登録者は横ばいとなっており、登録者増加に向けた取り組みが必要である。		

大項目	中項目	活 動 指 標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
8 芸術・文化 を守り、育てる 活動の推進	①郷土史学習講座の開催									76	社会教育講座における郷土史学習の受講者数(各回平均)	26人	30人	20	66.7%	C	実態調査
	② 学校教育における郷土教育の推進	124	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の活用	小学校	4.0	A	77	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	③ 文化財の保存と活用	125	文化財の適切な保存・保護	4.0	A												

8 芸術・文化 を守り、育てる 活動の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 83.3% 総合評価: A
	所見(学校)	【佐々小】「佐々町博士」を活用した学習が定着している。児童にとって、身近で分かりやすい内容で、効果的な学習が実施できている。特に、児童の興味関心を高める場面において有効である。「佐々町博士」を窓口に、ふるさと教育をさらに広げ、郷土を愛する子ども、郷土に貢献しようとする子どもを育成していきたい。 【口石小】3年生の社会科で、三柱神社について取り上げ、動画を見せて児童の興味関心を高めた。4年生の社会科では、以前にあった水害について深く探究するために、佐々町役場よりゲストティーチャーを迎え話を聞き、地域の方々の思いや努力について学習を深めた。		
	所見(委員会)	【公民館】郷土史学習講座は、平均受講者数が20人と目標を達成できていない。講座開設時より、様々な年代が参加しやすいと思われる土曜日に講座を開催してきたが、参加者は固定している。若い世代が興味を持つような講座企画・内容、広報のやり方を考える時期にきていると思われる。 【委員会】小学校においては、「佐々町博士」の活用により郷土教育の推進ができています。また、郷土史学習講座については、概ね計画どおり実施できたが、受講者数が目標値に達していないため、受講者増に向けた取り組みが必要である。		

大項目	中項目	活 動 指 標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
9 地域文化の 振興と創造	① 町民主体の文化 芸術活動への 支援	127	芸術・文化活動への支援	4.0	A					78	町民文化祭の参加者数	2,486人	2,500人	770	30.8%	D	実態調査
	② 子どもたちが 芸術・文化にふれ あう機会の提供	128	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	79	子どもたちが芸術・文化にふれあう機 会の提供数(年間)	2回	現状以上	3	133.3%	A	実態調査
	③ 文化会館の利 用促進	129	施設利用の促進	4.0	A					80	文化会館利用者数(年間)	32,807人	32,900人	18,635	56.6%	D	実態調査

9 地域文化の 振興と創造	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)
	所見	達成度平均: 4.0 総合評価: A	達成度平均: 4.0 総合評価: A	評価平均: 73.6% 総合評価: B
	所見(学校)	【佐々小】アルカス佐世保の芸術鑑賞体験教室に参加し、プロの演奏を聴くことができた。また、村上三弦道や「いっちゃん楽しいコンサート」、アルカス佐世保のアウトリーチ事業など、体育館や音楽室で生の演奏を全校で聴くことができ、音楽に親しむ機会をたくさん設けることができた。 【口石小】佐世保地域文化事業財団による「子どものための芸術鑑賞体験教室」に5年生が参加した。また、口石小学校体育館で「村上三弦道」の方々による三味線のコンサートを全校児童が鑑賞することができ、子どもたちが芸術・文化にふれあう機会を設定することができた。 【佐々中】学校での合唱コンクールや吹奏楽部の定期演奏会などを通して音楽や美術など文化的な学習を計画的に実施することができた。		
	所見(委員会・公民館)	【公民館】町民文化祭の展示数は、年々減少し高齢化が進んでいる。今年度は展示数を増やすべく広報さざの個人出展募集記事を9月と10月2ヶ月間掲載した。しかし、展示数はあまり増えなかった。 【委員会】小中学校では、カリキュラムに組み込んで芸術・文化にふれる機会を設けることができた。文化会館の利用者については、庁舎建設工事に伴う大型イベントの自粛等により減少している。		

令和5年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項 目	評価	所 見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	第二次佐々町子ども読書活動推進計画の策定並びに、佐々町教育振興基本計画及び佐々町学校評価ガイドライン、佐々町立学校における医療的ケアの実施等に関するガイドラインの一部改訂を行った。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。		該当事案はなかった。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		該当事案はなかった。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	給食費の物価高騰分の補助及び中学生の給食費の無償化、佐々小の1階床改修工事、口石小の運動場改修工事、佐々中のバリアフリー化工事、埋蔵文化財確認調査、北部地区体育館の外壁改修等を行った。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	佐々町教育委員会学校医、学校歯科医及び学校薬剤師設置要綱の制定、佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正、佐々町町内会公民館建築費助成金交付規則の一部改正、佐々町子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱の制定、佐々町立小・中学校処務規則の一部改正、佐々町小中学校給食費負担軽減事業補助金交付要綱の一部改正、佐々町立小・中学校管理規則の一部改正、佐々町小中学校給食物価高騰対策事業費補助金交付要綱の一部改正等を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	本年度は小学校教科書の採択を県北地区採択協議会（平戸・松浦市、小値賀・佐々町で構成）で法令等に従い公正に行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。		該当事案はなかった。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	3月の定例教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。		該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。	A	学校運営協議会委員、図書館協議会委員、佐々町社会教育委員等の委嘱を行った。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の大綱は定めていないが、校長・教頭については、毎月1回の定例研修会を開催している。また、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。		該当事案はなかった。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。		該当事案はなかった。
16	文化財の指定に関すること。	A	令和4年度に県指定に申請した狸山支石墓群から出土した鯉節形大珠が県文化財指定された。